

2 0 0 5 年 4 月 4 日

株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町

2-5 F・Kビル

TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 03-3664-5697

抗がん剤など医療用医薬品 1 2 薬効分類の調査を実施

- 抗がん剤市場 2 0 0 6 年に 4, 1 5 0 億円 (2 0 0 4 年比 1 1 0 %) -

総合マーケティングビジネスの㈱富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は、このほど、医療用医薬品 6 薬効領域(がん関連用剤、栄養補助剤など)の 1 2 薬効分類(抗がん剤、CSF、免疫抑制剤など)について、疾患概要、患者動向、治療薬剤、市場概況、開発状況などを調査し、その結果を「2 0 0 5 医療用医薬品データブック 5」にまとめた。

欧米の製薬企業が日本で攻勢を強めているのに対抗し、日本勢も規模と効率性を追求しており、2 0 0 5 年 4 月 1 日に山之内製薬と藤沢薬品が合併しアステラス製薬が誕生した。1 0 月には三共と第一製薬、大日本製薬と住友製薬が合併する。医療用医薬品分野では、医療費抑制策のなかで世界的な激しい競争が繰り広げられている。生き残りをかけた戦いは激しさを増している。

< 調査結果のポイント >

今回の調査対象 6 領域の市場規模は 2 0 0 4 年に 9, 5 5 6 億円となった。がん関連用剤、免疫抑制剤が着実に市場を拡大することで 2 0 0 6 年には 9, 9 6 0 億円に達すると予測される。

薬 効 領 域	2 0 0 4 年	2 0 0 6 年	0 6 / 0 4
が ん 関 連 用 剤	4, 6 1 8 億円	5, 0 3 5 億円	1 0 9 %
栄 養 補 助 剤	2, 3 5 1 億円	2, 3 2 9 億円	9 9 %
麻 酔 ・ 筋 弛 緩 剤	5 0 5 億円	5 1 1 億円	1 0 1 %
免 疫 抑 制 剤	3 4 7 億円	3 9 0 億円	1 1 2 %
体 内 診 断 薬	1, 5 6 4 億円	1, 5 3 0 億円	9 8 %
消 毒 剤	1 7 1 億円	1 6 5 億円	9 6 %
6 領 域 合 計	9, 5 5 6 億円	9, 9 6 0 億円	1 0 4 %

がん関連用剤

8 0 % 以上を占める抗がん剤が中心で、がん患者の増加により市場は拡大している。2 0 0 1 年以降に次々と発売された分子標的治療剤など新しい作用機序の製品が成長していること、患者数が増加傾向にある乳癌や前立腺癌などに抗癌ホルモン剤の投与が増加していることが大きな要因である。

CSF や制吐剤、癌疼痛治療剤などのがん周辺領域の開発品は、既存品の適応拡大や剤形追加が中心で、新薬の開発は少ない領域である。

作用機序 (mechanism of action) : 薬物が生体に作用を現す仕組み (メカニズム)

CSF (colony stimulating factor): コロニー刺激因子

栄養補助剤

幅広い疾患に処方される薬剤であり、医療全体の患者の動向に左右される。高齢化により基本的には総患者数は増加しているが、薬価が引き下げられていること、ビタミン剤などの安易、過剰な処方が問題視されたことなどから微減で推移している。今後も患者数の増加ほど市場は拡大せず微減推移とみられる。

麻酔・筋弛緩剤

麻酔実施件数総数や筋弛緩剤適応患者数は飽和点に達し、減少に転じている。しかし、硬膜外麻酔後における局所麻酔剤の持続的注入や閉鎖循環式全身麻酔など麻酔法によっては実施件数が増加を維持していることで、麻酔用剤が拡大基調を維持しており、麻酔・筋弛緩剤市場を辛うじて横ばいに保っている。

免疫抑制剤

臓器移植時の拒絶反応を抑制する免疫抑制剤の市場は拡大傾向にある。これは、臓器移植法施行で脳死体からの臓器提供が可能になったことにより病院サイドの環境が整備され、移植に踏み切る患者が増えたこと、生体からの腎移植、造血幹移植が増加したことによる。

体内診断薬

医療費抑制策が続くことが予想され、その一環として検査の見直し及び必要性のチェックが行われていくと考えら

れる。検査数の大幅な減少は考えられないものの増加要因も見あたらない。そのため体内診断薬のニーズはほぼ現状で推移すると予測され、薬価引き下げにより金額ベースの市場は縮小していくと考えられる。

消毒剤

主要消毒剤の薬価の引き下げから市場は縮小傾向にあり、今後もこの状況は続いていくと考えられる。新製品もなく、全体的に薬価が低い市場であるが、需要は底堅いため、市場規模は一定のレベルを維持すると予測される。

<注目市場動向>

抗がん剤 2004年 3,769億円 2006年 4,150億円(04年比110%)

がん患者は年々増加し、2003年のがんによる死亡者は約31万人に達している(日本人の3分の1が癌疾患で死亡)。特に50歳以上の発症が多く、高齢社会に突入した日本ではさらに患者が増えると予測されている。部位別のがんで患者数の増加が顕著なのは、肺がん、胃がん、大腸がんなどである。女性では乳癌や子宮癌、肺がんの患者が増加し、男性では前立腺癌や肺がんの増加が目立っている。

抗がん剤の研究開発は各薬剤分類で活発に進められている。特に、テーラーメイド医療として期待の高い抗体医薬、分子標的治療剤などは初期段階の開発品も多く、発売後は市場に大きな影響を与えると見込まれる。抗がん剤は、新製品の発売で新しい治療法が生まれるといわれるほど1つの製品が市場に与える影響が大きい。新しい作用機序の製品の開発は参入企業にとっては最大のテーマである。

抗がん剤の中で成長著しいのが分子標的治療剤である。分子標的治療剤は2001年から「グリベック(ノバルティス ファーマ)」、「イレッサ(アストラゼネカ)」などの新製品が次々発売され、副作用に対する課題を残しつつも、その高い治療効果で急速に市場へ浸透した。今後の抗がん剤をリードする製品として期待されている分野である。抗癌ホルモン剤は、近年患者数が増加傾向にある乳癌や前立腺癌に対するファーストチョイスとして処方量が増加している。乳癌は抗がん剤の奏効率が60~80%と比較的高く、集学的治療の中でも薬物療法の位置づけが高い。市場を牽引しているのは、抗癌ホルモン剤、分子標的治療剤、微小管阻害剤など新しい作用機序の分野である。参入企業もこれらの分野は重点領域と設定しており、営業体制の強化などにも積極的に取り組んでいる。

テーラーメイド医療: 予め薬剤に関係する遺伝子診断を実施して、個人の遺伝型に応じて薬剤の投与量を決定したり、別の薬剤を選択したりする医療。個人個人にあった予防・治療を可能とする。

集学的治療: 1つの治療法だけでは治療効果が上がらないと判断されたとき、他の治療方法を組み合わせて治療成績を向上させようとする治療法

免疫抑制剤 2004年 347億円 2006年 390億円(04年比112%)

従来の免疫抑制剤やステロイド剤と異なる作用機序を持つ生物活性物質として1986年に登場したシクロスポリン「サンディミュン(ノバルティス ファーマ)」は生着率の向上に大きく貢献、臓器移植に踏み切る患者を増やすと同時に、免疫抑制剤市場を拡大・牽引してきた。ノバルティス ファーマのシクロスポリンは「サンディミュン」から「ネオオーラル」へと移行しトップブランドの地位を保っている。1993年から新しい生物活性物質としてタクロリムス水和物「プログラフ(現アステラス製薬)」が登場、より高い効果を背景に処方を伸ばしており、「ネオオーラル」に迫る勢いで実績を拡大し市場拡大の牽引役となっている。造血幹移植を除いては免疫抑制剤の服用が移植後生涯続くことから、免疫抑制剤市場は拡大基調で推移する。

生着率: 移植してからある一定期間機能している移植臓器の割合。

<調査対象>

1. がん関連用剤
 - 1) 抗がん剤
 - 2) CSF
 - 3) 制吐剤
 - 4) 癌疼痛治療剤
2. 栄養補助剤
 - 1) 輸液製剤
 - 2) 経腸栄養剤
 - 3) ビタミン剤
3. 麻酔・筋弛緩剤
 - 1) 麻酔用剤
 - 2) 筋弛緩剤
4. 免疫抑制剤
5. 体内診断薬
6. 消毒薬

<調査項目>

1. 対象疾患の概要
 - 1) 対象疾患のトレンド
 - 2) 対象疾患の定義
 - 3) 診断基準
 - 4) ガイドライン・分類
2. 患者動向
 - 1) 厚生労働省「患者調査」
 - 2) 厚生労働省「社会医療診療行為別調査」
 - 3) その他厚生労働省による調査
 - 4) 国内・国外学会による患者数・罹患率調査

- 5) 検査の動向
 3. 治療薬剤
 1) 薬剤分類 2) 主要製品リスト 3) 治療パターン・薬物療法の位置付け
 4. 市場概況
 1) 市場規模推移 2) 分類別市場規模 3) メーカー・ブランドシェア
 5. 開発状況
 1) 開発中製品一覧 2) 注目開発品の概要
 6. 今後の方向性
 1) 市場規模の変化 2) 市場環境予測による市場変化 3) プロダクト・ガイドラインによる市場変化

<調査方法>

富士経済専門調査員による対象企業へのヒヤリング調査及びオープンデータを活用

<調査期間>

2004年12月～2005年1月

<報告書『医療用医薬品データブック』の構成>

1～6の全6巻で計24領域67薬効の医療用医薬品市場を調査。1～3は2004年3月～6月、4は2005年2月に刊行、6は2005年6月に刊行予定。

急激に変化する医療用医薬品市場を薬効分類ごとに、EBM・ガイドライン、患者数、製品及び企業のマーケティング力などの多面的なファクターで分析している。

6 5領域13薬効分類 (2005年5月)	関節・骨疾患治療剤(変形性関節治療剤、骨粗鬆症治療剤、抗リウマチ剤、外用消炎鎮痛剤)、女性疾患治療剤(子宮筋腫・子宮内膜症治療剤、切迫早産・不妊治療、経口避妊薬、更年期障害・その他女性疾患治療剤)、泌尿器疾患治療剤(前立腺肥大症治療剤、頻尿・尿失禁治療剤、性機能改善薬)、ヒト成長ホルモン剤、漢方薬
1 2領域10薬効分類 (2004年3月)	循環器官用剤(降圧剤、各種梗塞治療剤・血栓溶解剤・血管拡張剤、心不全治療薬、抗不整脈薬、狭心症治療薬、循環器官用剤その他)、感染症治療薬(抗生物質、抗ウイルス剤、抗真菌剤、ワクチン製剤)
2 3領域13薬効分類 (2004年3月)	精神神経疾患治療薬(抗不安薬・睡眠導入剤、抗うつ剤、統合失調症治療剤、他の向精神薬、抗パーキンソン病剤、抗てんかん剤、片頭痛治療剤)、脳疾患治療剤(抗痴呆剤、脳血管障害治療薬)、消化器官用剤(消化性潰瘍・逆流性食道炎・胃炎・Hp除菌、肝疾患治療剤、膵疾患治療剤、その他消化器関連用剤)
3 4領域11薬効分類 (2004年6月)	抗アレルギー剤、感覚器官用剤(眼科用剤、その他点鼻・点耳剤)、皮膚疾患治療剤(外用抗菌剤、外用抗アレルギー剤、アトピー性皮膚炎治療薬、褥瘡治療剤)、呼吸器疾患治療薬(喘息治療剤、COPD治療剤、鎮咳去痰治療剤、消炎酵素・感冒薬・その他呼吸器疾患治療剤)
4 4領域9薬効分類 (2005年2月)	高脂血症治療剤、代謝系疾患治療剤(糖尿病治療剤、糖尿病合併症治療剤、痛風・高尿酸治療剤、抗肥満薬)、解熱消炎鎮痛剤(非ステロイド系消炎鎮痛剤、ステロイド系消炎鎮痛剤)、血液関連薬剤(貧血治療剤、血液製剤・止血剤)

以上

資料タイトル:「2005 医療用医薬品データブック 5」
体 裁 : A4判 266頁
価 格 : 160,000円(税込み168,000円) 3巻セット(4,5,6)価格 450,000円(税込み472,500円)
調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第3事業部 TEL:03-3664-5821(代) FAX:03-3661-9514
発 行 所 : 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5811(代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp
この情報はホームページでもご覧いただけます。URL: http://www.group.fuji-keizai.co.jp